

# 令和7年 住吉大社年頭行事

日時	行事	説明
1日 午前5時	わかみずぎ <b>若水の儀</b>	宮司が自ら瑞垣内の神井より若水を汲上げ、竹筒に満たして第一本宮以下各本宮にお供えする儀式である。年頭に得られる若水は邪気を除き、若返り水の信仰がある。
1日 午前6時	さいたんさい <b>歳旦祭</b>	初日の出の時刻に、国の隆昌と国民の弥栄、並に五穀豊穰・無事息災を、各本宮はじめ境内全ての摂社・末社を拝し祈る。
1日 午前9時 2日 ~ 3日 午後4時 (30分毎)	住吉大社 おほらいこうしし <b>御祓講獅子奉納</b>	新春を祝し、特設舞台にて「御祓講獅子」が奉納される。笛や太鼓の音と共に獅子舞によって祓い清められる。
1日 午後1時 2日 ~ 3日 午後4時 (30分毎)	すみよしおどり <b>住吉踊奉納</b>	浪華名物「住吉踊」が特設舞台で奉納される。天下泰平・五穀豊穰・家庭和楽を祈りつつ、大きな傘の下で童女数人が、心の字をかたどりながら踊るもので、極めて素朴で野趣に富んだものである。有名な住吉郷土民芸品の麦藁細工「住吉踊人形」は、この踊を模したもので正月の縁起物として社頭で授与され、家のお守として部屋につるす。
3日 午前8時	げんしさい <b>元始祭</b>	宮中三殿にて行われる天皇の親祭に合わせて、全国の神社において国の隆昌と国民の繁栄を祈る祭典である。
4日 午後1時	とうかしんじ <b>踏歌神事</b>	古くは朝廷で行なわれた新年の行事で、当社に伝わる特殊神事の一つ。小餅を袋に入れた「袋持ち(ふくろもち)」と梅の若枝を持った「言吹(ごんすい)」とが互いに呼応して庭上を歩み、その後昇殿して小餅を神前に献じ、次いで神楽女によって、当社伝承の「白拍子」「熊野舞」が手振りも優雅に奏される。
7日 午前11時	あおうましんじ <b>白馬神事</b> しょうわてんのうさいようはい <b>昭和天皇祭遥拝</b>	白馬神事は、特殊神事で神馬「白雪号」が各本宮を巡拝した後、境内を駆け廻る神事です。正月に白馬を見ると邪気を払うと言い伝えられている。当社の神馬は、純血種道産子馬で赤い目をもつ珍しい白馬である。白馬神事に引続いて、昭和天皇祭遥拝が執り行なわれる。
9日 午前9時 ~ 10日 午後6時終了 (祭典両日10時斎行)	いちえびす・だいこくまつり <b>市戎・大国祭</b> (えべっさん)	境内南苑に鎮座し「市」の守神である市戎大国社は住吉の戎神で、「住吉のえべっさん」として親しまれている。神賑行事として祈禱木の奉焼などが行われ、終日この年の福を祈る祈禱者や福笹・吉兆を受ける人々で賑わう。
10日 午前9時	はつうさい <b>初卯祭</b>	当社の御鎮座日が、卯年の卯月の卯日と云う社伝に因み、正月は「初卯祭」、御鎮座記念の五月は「卯之葉神事」、他の月は「卯之日祭」と称し、毎月初の卯日に祭典を執行している重要な祭りである。「兎」を神使、「卯の花」を松と共に神木としている所以でもある。
11日 午前6時 ~ 午後4時	はつまつ <b>初辰まいり</b>	楠珣社、種貸社、大歳社、浅沢社の四社を毎月初の辰日に巡拝して、商売発達・家内安全・身体健全を「月参り祈願」する信仰。稲種を稲穂から神米へと交換してゆく「みのりまいり」も盛んで、多くの参拝者で賑わう。
12日 午前11時	わかみやちはまんぐうれいさい <b>若宮八幡宮例祭</b> (湯立神事)	摂社の若宮八幡宮の祭りで、神前に四つの大釜を据え、その社前で両手に笹を持った巫女が浪速神楽の笛と太鼓のはやしに合せて「湯神楽」を舞い、その年を占う祭である。
13日 午前10時	みけちしんじ <b>御結鎮神事</b> (お弓始め)	神功皇后の故事に因み、邪気退散・天下泰平を祈願して行う奉射の神事で、一切の不祥を祓い、福を招くと云われ、「お弓神事」「弓始神事」とも云う。古儀にのつとる十番奉射行事は大阪府弓道連盟の有志により奉仕される。
15日 午前9時 ~ 午後2時	住吉とんど祭 (左義長)	小正月(15日)にあたり、住吉大社に納められた古神符・古御守や正月のしめ縄等の飾物を斎火によって焼納する神事である。この火で餅を焼いたり、煙を浴びると無病息災になると伝えられ、多くの人々で賑わう。
15日 午前10時	じゅうごにちさい <b>十五日祭</b> しんねんけんえいさい <b>新年献詠祭</b>	十五日祭は毎月の恒例祭。古来より和歌の神として人々に尊崇されてきた住吉大社では年に三度の献詠行事があるが、この祭典では新年に当り、短歌を一般より募集し、入選歌を古式の披講によって神前に奉告する祭である。